ハジロコチドリ *Charadrius hiaticula* の越冬記録 Wintering records of Ringed Plover *Charadrius hiaticula* at Nanao-nishi bay in Ishikawa Prefecture, Northern Japan.

桑原 和之¹・時国公政²・鳥木茂³・永田敬志⁴

(Kazuyuki Kuwabara・Kousei Tokikuni・Shigeru Toriki and Hiroyuki Nagata)

は じ め に

ハジロコチドリ *Charadrius hiaticula* は、ユーラシア大陸北部、アイスランド、グリーンランドなどで繁殖し、ヨーロッパ、アフリカからインド西部の海岸で越冬する (Bruun et al., 1986, Chandler, 1989). 3亜種に分けられており、日本にはスカンジナビア・フィンランドから北シベリアにかけてのツンドラ地帯で繁殖し地上海・アフリカ東部から北西インドで越冬する亜種である *C. h. lundrae* (lowe) が、数少ない旅鳥または冬鳥として、干潟に渡来する (日本鳥学会, 1974, Peters, 1934, Vaurie, 1965). 春と秋の渡りの期間には、各地の干潟・湿地・水田などで極くまれに記録されるが、千葉県の小櫃川河口・神奈川県の大井川河口・愛知県の汐川河口 (田原湾) などの干潟でしか越冬は、記録されていない (愛知県農地林務部自然保護課, 1983・桑原, 1987・百瀬・桑原 1988・日本野鳥の会神奈川支部, 1986). 本報告では、日本海側での初めての越冬記録について報告したい。

調 査 地 お よ び 方 法

調査は、能登半島の中央部に位置する内湾である七尾西湾の南部、石川県田鶴浜町川尻川河口 (37°05' N, 136°52' E) でおこなった (Fig. 1). 川幅約20mの川尻川河口には、約4haの干潟が広がる。満潮時でも干上がっている部分の底質は砂質で、干潮時のみ干出する部分は砂泥質である。砂泥質の干潟は、シギ・チドリ類の採食場所となり、砂質の部分は彼らの休息場所となりカモメ類・ガン・カモ類などの水鳥も飛来する。例年1・2月には、気温が最も低くなるが調査期間に干潟が、氷結することなく降雪により干潟が雪で被われることもなかった。川の両側には、約150haの水田地帯が広がり、ホオジロ *Emberiza* spp. 類などの小鳥が多い。調査地周辺では、220種の野鳥が記録されている (田鶴浜町 1988a). コチドリ *Charadrius dubius*・ハジロコチドリ *C. hiaticula*・イカルチドリ *C. placidus*・シロチドリ *C. alexandrinus*・メダイチドリ *C. mongolus*・ムナグロ *Pluvialis dominica*・ダイゼン *P. squatarola*・ケリ *Microsarops cinereus*・タゲリ *Vanellus vanellus* の9種が観察されている (田鶴浜町, 1981, 1988b, 1988c, 1989a, 1989b).

調査は、1986年3月27日から1989年5月29日まで75回行った。調査の際には、調査地内のチドリ類の個体数を調べて数えた。同時にその採食場所を干潟・水田・川筋等に分け記録した。ハジロコチドリが、観察されたときには、特にその個体の行動、羽色やくちばしの色等を記録した。また、1月に1度、写真撮影を行い頭部・胸部・脚などの色の変化を記録した。なお、観察時には、8-10倍の双眼鏡と25-30倍の望遠鏡を併用し、写真撮影には800mm望遠レンズを使用した。

Fig. 1 調査地
Map of the study area.

Table.1 チドリ類の個体数の季節的变化

Table.1 Seasonal changes in the number of the Plovers at study area.

Date	spp.	C.h	C.d [*]	C.p [*]	C.a	C.m	P.d	P.s	M.c [*]	V.v [*]	Total
27 Mar. 1986										27	27
14 Apr.			2					3		2	7
15 May			1			1					2
4 Jun.			2								2
10 Jul.						1					1
24 Aug.											0
5 Sep.						4					4
30 Oct.										10	10
24 Nov.					1			1			2
23 Dec.					2			1			3
3 Jan. 1987					2						2
23 Feb.					4						4
31 Mar.								1			1
8 Apr.									1		1
11 Apr.								1		1	2
17 May			2			2					4
12 Jun.			2								2
10 Jul.											0
29 Aug.						1					1
22 Sep.			3					1			4
28 Oct.					1			1		ca50	52
4 Nov.					1			1			2
10 Dec.								2			2
27 Jan. 1988					3			3			6
10 Feb.					2			3		9	14
9 Mar.					9			3		1	13
1 Apr.					7						7
31 May			2			1					3
10 Jun.			2								2
18 Jul.											0
12 Aug.					7						7
26 Sep.								3			3
23 Oct.								5		2	7
25 Oct.		1						8			9
28 Nov.					4			1			5
5 Dec.		1			5			1			7
29 Dec.		1		3	10			1			15
1 Jan. 1989		1		3	10			1			15
18 Jan.		1		2	8			1		7	19
27 Feb.		1		1	10						12
10 Mar.		1			7					8	16
1 Apr.					4						4
3 Apr.		1			4				1		6
4 Apr.					4						4
5 Apr.		1			2						3
6 Apr.		1			3						4
11 Apr.		1			2						3
12 Apr.		1			2						3
13 Apr.		1							2		3
17 Apr.									2		2

Date	spp.	C.h	C.d	C.p	C.a	C.m	P.d	P.s	M.c	V.v	Total
18 Apr.			1						2		3
15 Apr.					1				2		3
19 Apr.		1			2				2		5
20 Apr.		1			1				2		4
22 Apr.									4		4
23 Apr.									1		1
25 Apr.								1	6		7
26 Apr.								1	6		7
27 Apr.									6		6
30 Apr.									6		6
1 May			1						4		5
2 May									3		3
5 May									5		5
6 May									4		4
10 May			2						2		4
11 May									2		2
17 May									2		2
18 May									2		2
19 May									2		2
23 May									2		2
24 May									2		2
25 May									2		2
26 May									2		2
27 May									1		1
29 May											0

C.h: *Chrysodius hiaticula* C.d: *C. dubius* C.p: *C. placidus* C.a: *C. alexandrinus*
 C.m: *C. mongolus* P.d: *Pluvastis dominica* P.s: *P. squatarora* M.c: *Microsarcops cinereus*
 V.v: *Vanellus vanellus* * Occured in paddyfield

結 果

1. 出現期間および採食場所

ハジロコチドリは、1988年10月25日から1989年4月20日の期間に1羽が観察された(Table.1)。初認の10月25日には、シロチドリ8羽と共に干潟に飛来し、採食していた。10月25日以降、12月5日に出現しただけであったが、12月13日からはほぼ毎回記録された。この越冬期間のこの個体の出現率は、71.4%であった。1988-1989年の冬期に記録されたチドリ類の最大個体数は、シロチドリが10羽、イカルチドリが3羽、タゲリが7羽でハジロコチドリとダイゼンがそれぞれ1羽であった。

1988年12月29日から1989年2月27日まで見られたイカルチドリは水田でしか採食しなかったが、このハジロコチドリの採食場所は干潟だけであり、水田や川筋では観察もされなかった。主に干潮時に、やや湿った場所もしくは砂泥質の干潟で採食していた。この個体は、多毛類 Polychaeta をよく採食しており、餌を水ぎわで捕獲した時には水中に落とし洗ってからのみこんだ。満潮時には、乾いた干潟で休息していた。

2. 羽色および裸出部の色の変化

10-4月にかけて、頭部、胸などの色の変化が著しかった。眼先(lores)から頬・耳羽(ear-coverts)にかけての過眼線の色は、10、12月では褐色であったが、1月になり目先にうすい黒色の羽毛が確認されるようになった(Fig. 2a, b)。2月になり眼の下褐色の部分が次第に黒色になってきた(Fig. 2c)。2月上旬にはまだうすい黒色であり茶色の羽毛も混ざっていたが、2月中旬になりほぼ全体が淡い黒色になった。黒色の部分は、次第に濃くなり3月中旬にはほとんどがやや濃い黒色になった(Fig. 2d)。4月上旬には、濃い黒色になり茶色の羽毛はほとんど見えなくなった(Fig. 2e)。

前頭部の羽色の変化も同様であり、10-12月には黒い羽毛が疎らに見られただけであったが、12月中旬になり黒色の羽毛が増え、1月中旬には淡い黒色部分は帯状になった。その後、黒色部分は濃くなり、4月上旬には眼の下黒色部分と同じくらい濃くなり、前頭部の横帯 Head pattern (Head-marking) は、完全に濃い黒色になった。胸の茶色の帯状の部分(胸帯 Breastband) は、10-12月は褐色で中央部が切れている様にみえた。12月中旬になり、胸帯は太くなり、淡い黒色の羽毛が見られるようになった。胸帯は徐々に太くなり、黒色部分もひろがっていった。3月中旬には、黒色部分は濃くなり、4月上旬には褐色の羽毛が見られなくなった。

嘴の付け根の部分も変化した。10月には、下嘴の付け根の一部が、やや黄色であったが、12月には嘴全てが黒色になった。1月中旬には、下嘴の付け根がオレンジ色になった。嘴の付け根のオレンジ色の部分は、次第に広がり、3月中旬には上嘴下嘴ともオレンジ色になった。4月上旬になると嘴の先に黒色部分を残すだけになり、くちばし全体の色がオレンジ色になった。

脚の色も変化した。10-3月までは黄色を呈していたが、4月になりやや赤味を帯びてきた。眼の周りの裸出部(orbital ring)は、2月までは確認できなかった。3月になりorbital ringが、見られるようになったがコチドリのようにはっきりせず細く眼の周りにかすかに見られただけであった。色は、やや赤味を帯びた黄色であった(Fig. 4)。

考 察

ハジロコチドリの越冬は、東シベリアやカムチャッカ・沿海州沿岸では確認されていない(Flint et al., 1987. de Schauensee 1984)。カムチャッカでは、7月から10月の渡りの期間にみられる(Lobkov, 1988)。インド北西部では越冬しているが、東南アジア・オーストラリアなどではまれに少数が記録されるにすぎない(Ali and Riply, 1987. Lane, 1987)。日本においては東北地方の宮城県蒲生干潟(38° 15' N, 141° 00' E)で1984-1990年の冬期に1羽が記録されている(小山1990未発表)。しかし、越冬期間を通じての記録は、1984年12月23日から1985年3月24日に1羽が観察されただけである(日本野鳥の会宮城県支部蒲生鳥類調査グループ私信)。日本海側では、秋田県、山形県、新潟県などの干潟のない地域での越冬記録はない(本間, 1981, 西出, 1977, 高橋, 1964)。本調査でも調査地で越冬したハジロコチドリは、干潟でのみ採食しており干潟への依存はかなり高かった。厳冬期でも凍結しない干潟がハジロコチドリの越冬地としての北限となりうるであろう。

ハジロコチドリの太平洋側の北限が宮城県蒲生干潟で日本海側の北限が石川県七尾西湾川尻川河口干潟であった。これらの記録が、極東地域の越冬北限の記録であると思われる。

また、この個体は、冬羽(WP)から夏羽(SP)に換羽した。目視による観察では、第1回冬羽(1st. W)の特徴である内側中雨覆(inner median)の羽のバフ色の縁取り(buff-tip)や幼羽は確認できなかった(Prater et al., 1977)。夏羽では、成鳥の特徴をしめしており、胸帯や前頭部の横帯は黒色であり褐色の羽毛はほとんど見られなかったことから雄であると推定できる(Hayman et al., 1986)。Taylor(1974)も5月に胸帯が全て黒い個体の80%が、雄であると述べている。

目視によるハジロコチドリとミズカキチドリ *C. semipalmatus* の識別は容易ではない(Chandler, 1987a, 1987b, Dukes, 1980)。手にとってみればその識別は困難ではないが、それでも亜種の識別は困難である。基亜種である *hiaticula* は *tundrae* に比べサイズがやや大きく羽毛はやや淡いという。*tundrae* はやや小さく羽毛はやや濃いというが今回の調査では *tundrae* とは識別・同定できなかった。日本に最も近い本種の繁殖地は、カムチャツカのペラ川であると思われ、*tundrae* が繁殖するという(Lobkov, 1986)。この亜種が日本に飛来している可能性が最も高い。しかし、望遠鏡や双眼鏡などによる観察では亜種の識別は不可能であり、そのためには標識調査による捕獲が必要であろう。今後の標識調査の成果に期待したい。

Fig. 2-a

Fig. 2-b

Fig. 2-c

Fig. 2-d

Fig. 2-e

Fig. 2 ハジロコチドリ *Charadrius hiaticula* の冬羽と夏羽

Winter and summer plumage Ringed Plover *Charadrius hiaticula*.

a. 1988年 12月中旬. 冬羽.	a. mid December 1988. Winter plumage.
b. 1989年 1月中旬. (右端)	b. mid January 1989
c. 1989年 2月中旬.	c. mid February 1989
d. 1989年 3月中旬.	d. mid March 1989
e. 1989年 4月上旬. 夏羽.	e. early April 1989. Summer plumage.

謝 辞

本稿をまとめるにあたり小山均氏には、蒲生干潟の資料を提供していただいた。また、日本野鳥の会宮城県支部蒲生鳥類調査グループの方々には、1984-1990年にかけての蒲生海岸鳥類センサス記録を引用させていただいた。西出隆・笹森聡・竹丸勝朗の各氏には貴重な御助言を、山階鳥類研究所の茂田良光・尾崎清明の両氏には原稿を校閲していただいた。これらの方々に深く感謝の意を表したい。

SUMMARY

Ringed Plover is a rare migratory or wintering bird in Japan. One Ringed Plover wintered at the mouth of Kawashiri River, Taturuhama, Nanao-Nishi bay, Ishikawa prefecture ($37^{\circ}10'N$, $136^{\circ}90'E$) from 25th October 1988 through 20th April 1989. It seems that study area and unfrozen parts of the Gamou tidal flat are the northern limit of their wintering region in the Far East for this species. In this survey, the bird preferred tidal flats to paddyfields. It foraged mainly on polychaeta worms and the other smaller items. From October 1988 to December 1988, we couldn't find any characteristics to age and sex it. Breast-band and mask patterns in summer plumage suggested it to be an adult male.

引 用 文 献

- 愛知県農地林務部自然保護課 1983 愛知の野鳥, 332pp. 愛知県, 名古屋. ,
- Ali, S. and Ripley, S.D. 1987 Compact handbook of the birds of India and Pakistan together with those of Bangladesh, Nepal, Bhutan and Srilanka. Oxford Univ. Press, New Delhi
- Bruun, B., Delin, H. and Svensson, L. 1986 Birds of Britain and Europe 320pp. Country life book
- Chandler, R.J. 1987a Yellow orbital ring of Semipalmated and Ringed Plovers. Brit. Birds. 80: 241-242.
- 1987b Mystery photographs: Semipalmated Plover. Bri. Bir. 80: 238-241.
- 1989 North Atlantic Shorebirds. 208pp. Macmillan, London.
- de Schauensee 1984 The birds of China. 602pp. Smithsonian Institution Press. Washington, D.C.
- Dukes, P.A. 1980 Semipalmated Plover: new to Britain and Ireland. Brit Birds, 73: 458-464.
- Flint, V.E., Boehme, R.L., Kostin, Y.V. and Kuznetsov, A.A. 1987 A field guide to birds of the USSR. 353pp. Princeton University Press, New Jersey.
- 桑原和之 1987 東京湾の干潟におけるチドリ類の分布. 日本生態学会. 第34回大会要旨集: 204.
- Lane, B.A. 1987 Shorebirds in Australia. 187pp. Nelson. Melbourne.

- Lobkov, E.G. 1986 カムチャッカで繁殖する鳥類1. 85pp. 極東鳥類研究会 新潟.,
- Hayman, P. Marchant, J and Prater, T 1986 Shorebirds. an identification guide to the waders of the world. 412pp. Groom Helm. London.
- 本間義治 1981 新潟県鳥獣図鑑. 310pp. 新潟日報事業社. 新潟.
- 百瀬邦和・桑原和之 1988 小櫃川河口の鳥類. 1974-1986. 千葉生誌. 37:80-96.
- 日本鳥学会 1974 日本鳥類目録. 改訂第5版. 120pp. 学習研究社., 東京.
- 日本野鳥の会神奈川支部 1986 神奈川の鳥. 1977-86. 神奈川県鳥類目録. 218pp. 日本野鳥の会神奈川支部. 横浜.
- 西出隆 1977 秋田の野鳥. んだんだ文庫3. 169pp. 無名舎. 秋田.
- Peters, J.L. 1934 Check-list of birds of the world. vol. 2. 401pp. Harvard University Press. Cambridge.
- Prater, A.J., Marchant, J.H. and Vuorinen, J. 1977 Guide to the identification and ageing of Holarctic Waders. BTO. guide 17. 168pp. BTO. Tring
- 高橋多蔵 1964 山形県の野鳥. 166pp. 山形県野鳥刊行会. 山形.
- 田鶴浜町 1981 町の野生動物たち(84) ムナグロ. 広報たつるはま 227:9.
- 1988a 田鶴浜の自然. 52pp. 田鶴浜町. 田鶴浜.
- 1988b 町の野生動物たち(159) ダイゼン. 広報たつるはま 302:7.
- 1988c 町の野生動物たち(168) ハジロコチドリ. 広報たつるはま 311:11.
- 1989a 町の野生動物たち(170) イカルチドリ. 広報たつるはま 313:11
- 1989b 町の野生動物たち(180) シロチドリ. 広報たつるはま 323:9.
- Taylor, R.C. 1974 A method for sexing adult Ringed Plovers *Charadrius hiaticula* L. in summer plumage. Wader Study Group. Bull. 11:15-17
- Vaurie, C. 1965 The birds of the Palearctic fauna. a systematic reference. Non-Passeriformes. 763pp. H.F. & G. Witherby, London.

1. 千葉県千葉市青葉町 955-2 千葉県立中央博物館 〒280
* Natural History Museum and Institute, Chiba, Aoba-cho, Chiba-shi, Chiba, 280
2. 石川県鹿島郡田鶴浜町 田鶴浜町役場 〒929-21
** Office of Taturuhama-machi, Taturuhama-machi, Kashima-gun, Ishikawa, 929-21.
3. 石川県七尾市府中町員外12-2 〒926
*** Ingai 12-2, Futyu-machi, Nanao-shi, Ishikawa, 926.